

# 建築に「自然の恵み」

## 科学とデザイン講演

静岡でシンポ

自然環境を科学的に考慮した建築デザインの在り方を考える「静岡建築家会」のシンポジウムが16日、静岡市葵区の市文化・クリエイティブ産業振興センターで開かれた。コンピュータシミュレーションなどを活用し、太陽光や気流などを取り込んだ省エネ住宅やビルの建築技術について有識者が講演した。



自然環境を科学的に取り入れる建築技術を紹介したシンポジウム＝16日午後、静岡市葵区の市文化・クリエイティブ産業振興センター

芝浦工業大の秋元孝一教授は、オフィス空調の省エネ技術について実証実験を重ねた研究を紹介。国連の持続可能な開発目標（SDGs）を基に「エネルギーの削減だけでなく、快適性や知的生産性の向上も後押しできる技術が必要」と述べた。東京工業大の川島範久助教は、気象データを解析したシミュレーションで最適な日当たりや風通しを計算した一般住宅の建築例を紹介し、「人間が制御できない自然とのつながりを実現できる」と重要性を強調した。シンポジウムは静岡理工科大と静岡文化芸術大が連携したふじのくに地域・大学コンソーシアムの大学連携講座の一環。（社会部・杉崎素子）